

NPO 法人

第71号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578
TEL 090-4135-3193 FAX 055-288-2722 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

瀬戸千段の滝遊歩道が完成しました!

～日本たばこ産業 NPO 助成事業～

芦安ファンクラブ 中島紫穂

2018年6月に日本たばこ産業より交付を受け、7月から10月まで実施した歩道の再整備は、芦安ファンクラブのコンセプト通り、行政を始め沢山の地域の方々や芦安に関心のある県内外の方々にも参加していただき、「協働」して作業を進める事が出来ました。協力頂いた全ての皆さんに感謝します。

思えば今年の7月、南アルプス市役所の職員の方々と踏査をした時の千段の滝までの道はとても荒廃し、人が普通に歩ける場所ではありませんでした。

本当に出来るのだろうか?と不安もありました。

行政からのバックアップと芦安ファンクラブのこれまでの整備作業のノウハウを活かして、今回芦安集落内で気軽に歩ける遊歩道として復活する事が出来て、過疎地域である芦安の活性化にも役立ててもらえる場所にしていく事が出来そうです。

今後は学校等の自然学習やミニツアー等、沢山の楽しめる企画を立てて、地域の方々と共に利用を進めて行きたいと思います。



整備の様子。芦安ファンクラブのメンバー以外にも、一般のボランティアの方にも協力していただきました。



11月17日には、お披露目ツアーを行いました。紅葉の滝と芦安集落の散策を楽しんでいただきました。

芦安中学生のワカンジキ作りを覗いてみた!

～ワカンジキって知ってるけ?～

芦安ファンクラブ 清水 毅

【11/21 (水)】

朝から芦安FCメンバーにより、中学生ワカンジキ作りの準備が行われた。中学校庭に水を満たしたドラム缶を設置し、薪をくべて湯をわかし、桧の小枝の茹で作業が始まった。

発端は、学校林の桧の間伐と枝払いで発生した小枝の使い道として、以前芦安FCで実施したワカンジキ作りを中学生にも体験してもらい、完成品を6人の卒業生に記念の品として贈ろうという趣旨で始まった。

午後、紅葉の山に日が陰った校庭に中学生全員19人が集まった。飽くまでも授業の一環としての作業とか、先生方の理解が無ければあり得ない。芦安教育ならばこそ。

FCメンバーの手伝いもあって茹で上がった枝の皮むきから始まった。皆わくわく。次に、まだ湯気の出ている枝を、FC会長考案による特殊機械装置(写真参照)でU字形に曲げる作業に移った。何回か繰り返し、コツを覚えると自分たちだけでやってみて、きれいに曲げられた時は大歓声!こんなに楽しい授業があるだろうか。6人分24本の輪っかができ、次回の作業まで針金で固定し保管。



全校生徒が集まりました



ヒノキの枝を煮て柔らかくします



外の皮をはがします



上手く曲げることができました

【11/30 (金)】

中学校の工作室にて、6班に分かれて作業開始。
図面の寸法に合わせて前回曲げた桧の枝を切る。
前もって夜叉神峠から採ってきて加工準備してあ
ったミズナラ（堅い木）の爪と桧枝のワッカに欠き
込みを入れる作業に大苦戦。割れたり、欠けたり、
切り過ぎたり・・・どうなる事やら。



かんじきの“刃”

ノコギリ、ノミ、カナヅチ、万力等初めて使う
子の生徒、段々要領を覚えて考えながら自分ででき
る生徒、ロゲンカしながらワイワイがやがや。参加
した大人も生徒と一緒にひたいに汗。

結局、時間内には完成できず次回の延長戦へ。



初めてのノミに緊張です



慎重に…



なれないノコギリに一苦勞

【12/3 (月)】

とにかく、爪とワッカの合わせの欠き込みが大きな山。あとは針金で固定し、細いロープを巻き付けて完成。あちこちで起こる拍手と歓声。ヤッター！早速足に付けて履いてみる生徒、ひとり黙々と掃き掃除を始める子・・・色々

ワカンジキ完成の喜びもさることながら、作業途

中で色々な初めての体験を乗り切った生徒達に拍手を送りたい。お疲れさん！地域の大人や先生方との共同作業は生徒達の心に残ることだろう。いつか、雪が積もったら実際に歩いて楽しんでもらいたい。

その昔ヨーロッパまで輸出したといわれる芦安伝統工芸の、中学生ワカンジキ作りの顛末でした。



協力して頑張りました



無事完成！

「芦安からの夢叶う」

～穂見神社までの道のり～

芦安ファンクラブ 鈴木一江

事の発端

もう、1年前のことで定かではないが・・・。

【その1】

市内の地域おこし協力隊が高尾に住んでいて、穂見神社の夜祭りお神楽に出るらしいという話を聞きつける。

【その2】

ふるさと文化伝承館でバイト中、高尾という小さな地区に穂見神社という神社があって、夜祭りが有名で人が集まると聞く。

【その3】

同じ頃、曲輪田から穂見神社まで昔を再現した旧道を歩く提灯行列ツアーがあることを知る。

「昔は、提灯を下げて曲輪田から穂見神社まで歩いて行ったらしい」

そんな話を芦安でしていたら、芦安からも山を越えて歩いて行ったという話を聞く。(何それ！山越えたら、高尾に行けるの?) その時は、半信半疑だった。それでも、芦安から歩いて行くことを夢見つつ、去年は、曲輪田からのツアーに参加した。

実際に穂見神社の夜祭りに行ってみると、住民数軒という地区のお祭りなのに、お神楽あり、巫女さんあり、夜店あり、こんなに盛大とは・・・。感動！！

2018年

今年は、芦安から歩いて行きたいなー、と思い、スケジュール手帳に夜祭りの日程を書き込み、時期をねらう。このときは、まだ何の計画も持っていなかった。どうなることやら・・・。

【4月】

芦安小中学校の学校林整備時に、学校林を越えて歩いて行くと高尾まで行けることを知る。校長先生も歩いたことがあるとのこと。

【秋・・・】

日にちだけが近づいていき、今年は、無理かなーと思っていたところ、芦安ファンクラブの清水准一さんに話をしたら「一度行ってみるか！！」とのこと。芦安中学校の校長先生も誘って、踏査に行くことに。

【11月8日／踏査】

私でも行けた。何力所か、怖いところはあったけれど、意外と行ける。歩いて行きたい気持ちが大きくなった。そんな中、中島さんが整備の日程を決めてくれた。



最初の調査へ向かいます

【11月20日／整備】

クワを担いで、山道へ！！夜歩くことを考えて、マーキング多めに、石や根っこもどかして。



2回目の整備作業の様子



4時間かけて登山道整備

【11月22日夜祭りへ決行！！】

提灯を下げて、芦安から歩きました。行程は、休憩を含めて約2時間半でした。



提灯を持って無事到着

1ヶ月の間での出来事で、本当に、何かに導かれたかのような感じでした。

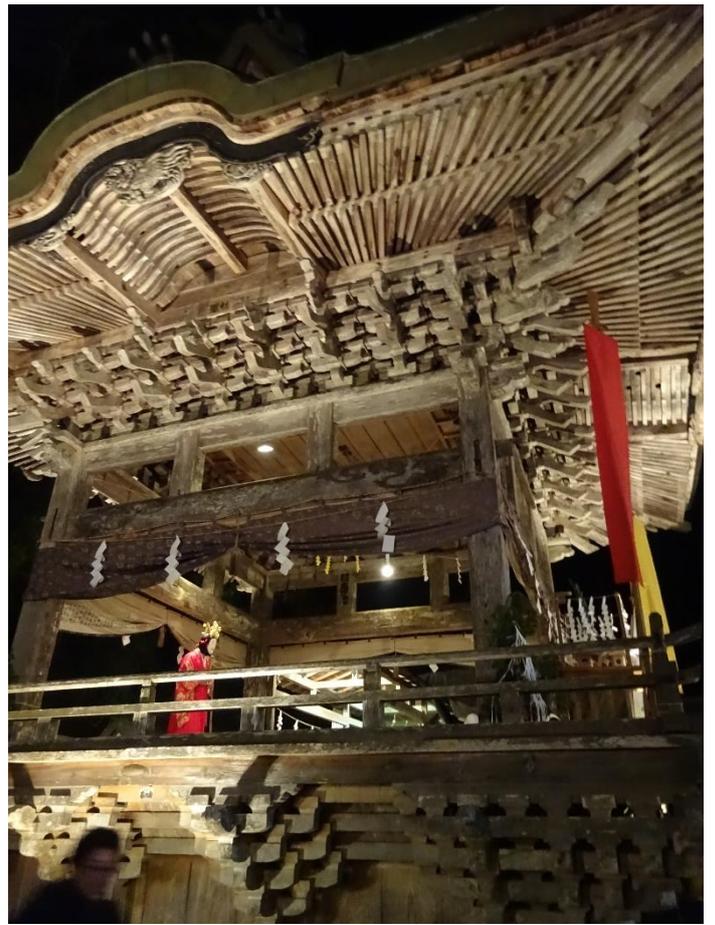
今まで何人かの人に歩いて行った話をお聞きしていたのですが、今までは、どこか上の空で話が上空を通過していくような感じでした。しかし、実際に行った今は、様々な話を聞いてもしっかり入ってきて、聞くのとやるのとでは大違いだなと思いました。

穂見神社のお祭りに関して、たくさんのお話をうかがいました。昔は、他にいくところも少なく、穂見神社のお祭りを楽しみにしていたこと。向こうに親戚がある人は、泊まって帰ったけれど、そうではない人は行きも帰りも歩いたこと。学校のストーブの薪を持参すると、夜祭りの日にお休みをもらえたなんていう話もありました。中学生になると穂見神

社では、物足りなくなって、倉庫町のお祭りに行くようになったということも聞きました。

だいたい体力的なことなのか、穂見神社の夜祭には小学校5、6年生で行った話が多かったです。

今回は弾丸スケジュール、有志で行きましたが、お花見の季節、夜祭りツアーが組めたらいいなと企んでいます。そのためにも、もっともっと地域の方のお話をお伺いして、当時に想いを馳せたいと思います。



夜祭りでのお神楽



峠から芦安方面を望む

環境省レッドリスト改訂調査を終えて

～南アルプス北沢峠～

菌類懇話会会員・日本菌学会会員

茅野市ハケ岳総合博物館専門員 小山明人

※今年、環境省の生物絶滅危惧種調査・レッドデータリスト改訂調査に、芦安ファンクラブが協力しました。そのお礼にと菌類懇話会事務局の小山明人様より珍しいキノコの世界のほんの一部を紹介して頂いたので掲載します。

環境省では絶滅のおそれのある野生生物の種、レッドリスト改訂の調査を4年に一度(2年間)、文部科学省の国立科学博物館を通じて行っています。通常はリストを見直すための調査ですが概ね10年をめどにレッドデータブックとして刊行しています。昨年と本年は第4次リスト改訂調査の年でした。国立科学博物館では全国を地域・特性で分けています。全国で20人ほどいますが、中部地区は私と元富山県立植物園の橋屋さんが担当しています。

私は自宅が長野県の富士見町にあることから、ふだんは立地を生かして亜高山帯のキノコを調べています。そこで改訂調査では富士山、北沢峠、ハケ岳、黒部、乗鞍の亜高山帯を調査地としました。

キノコの世界

キノコはカビと同じ菌類ですが、目に見える大きさのものをさします。ですから生物学的な言葉ではありません。菌類は動物や植物に比べて小さく、そのため研究が遅れている生物群です。例えば脊椎動物では90%、植物では84%くらいがわかっているとされていますが、菌類は5%、その中でもキノコは比較的大きいとはいえ10%未満でしょう。ですから、図鑑に掲載されていないものも多く、未知種も多くあります。キノコには未知なる世界を追い求める楽しさ、大変さがあります。

北沢峠でしか見えないもの

シラビソやオオシラビソ、コメツガやダケカンバなど亜高山帯の樹種は北沢峠も富士山やハケ岳と同じで似たような景観です。しかし、北沢峠でしか見たことがないものとしてはシブイロスギタケ(図1)とコゲチャヒロハアンスタケ(図2)があります。

どちらも図鑑に掲載されていますから固有種ではありませんが希少種なのでしょう。



図1 シブイロスギタケ 2013年9月11日



図2 コゲチャヒロハアンスタケ 2018年8月27日

亜高山帯で見られる共通種

富士山やハケ岳でも普通に見られるものとしてコショウイグチやフサクギタケ、クロチチタケなどがあります。ドクツルタケ(図3)は類似種が多いのですが亜高山帯のものが本当のドクツルタケとされています。ニセキヌメリイグチ(図4)はDNAのITSという領域を調べたところ外国産のものとはほぼ一致しています。残念ながら国内の図鑑で生態写真を掲載したものはありません。



図3 ドクツルタケ 2016年9月14日南ア山系釜無山



図6 ベニテングタケ 2013年7月30日



図4 ニセキヌメリイグチ 2018年9月6日ハケ岳麦草峠

亜高山帯に限らず見られるもの

キノコは物を腐らせて栄養をとる腐生菌と樹木と栄養をやり取りしてお互いに生きている菌根菌があります。菌根菌ではオオシラビソやウラジロモミなどモミ属に共通するもの、また、ダケカンバやシラカンバ、ミズメに共通するものなどがあります。モミ属ではジंगाサドクフウセンタケやオオダイアシベニイグチ(図5)、キハツダケ、カンバ属ではベニテングタケやツバフウセンタケです。ベニテングタケ(図6)は亜高山帯のものは黄色味がかかるものもよくあります。カラマツ属ではハナイグチやアミハナイグチがあります。



図5 オオダイアシベニイグチ 2013年7月30日

日本新産種の可能性があるもの

キノコは未知種が多い世界ですが、外国で記録されていて日本で未記録のものは日本新産種候補です。シロアシフウセンタケ(仮称・図7)は亜高山帯でよく見かける種ですが、DNAのITSという領域を調べたところ外国ものと同じということがわかっています。後は発表するだけです学術的な記録をしないと新産種とは認められません。



図7 シロアシフウセンタケ(仮称) 2018年8月27日

未知種かもしれないもの

ススケヤマドリタケは私の自宅付近にもあるようですが亜高山帯のもの(図8)はかさ表皮の菌糸形状が異なります。文献調査をしていますが未知種の可能性があります。



図8 ススケヤマドリタケ類似種 2018年8月3日

新しくなった「薬師岳小屋」をご紹介します!

芦安ファンクラブ 入倉利也

夜叉神峠登山口を登り、杖立峠、苺平を通過後、南御室小屋からの樹林帯を歩き、視界が開け巨岩と白砂の砂払岳到着。砂払岳からほどなくして新しく建て替えられた赤い屋根の薬師岳小屋に到着します。

新しくなった小屋に私がお邪魔したのは、残雪が残る5月のゴールデンウィーク。予約客で一杯で、大賑わいでした。

小屋は2階建て、寝室は個室のような区切られたスペースで布団もふかふか、とてもゆっくり出来ました。17時からの夕食はおでん。ビールによく合う最高の夕食でした。朝食は6時。暖かいご飯に鮭が最高においしかった。

その後、6時40分に出発して白砂の縦走路を歩き鳳凰三山を縦走して夜叉神峠に下山しました。来シーズンも訪れたい、そんな小屋と山です。



砂払岳付近から薬師岳小屋と薬師岳を望む



新しくなった薬師岳小屋



薬師岳小屋の主人、小林珠里さんに小屋の紹介文をいただきました。

薬師岳小屋は、南アルプス鳳凰三山の薬師岳鞍部 2720mの位置にあります。山頂まで約10~15分で行けます。山頂からは、富士山、北岳、ハケ岳、秩父山脈、果ては中央アルプス、北アルプスなどの美しい山々が見られます。

当小屋は、旧小屋の老朽化にともない2017年夏にリニューアルいたしました。木造2階建てとなり、2階窓からは一部分ですが北岳山頂も見る事ができます。客室なども広いスペースとなっていて、ゆったりと過ごすこともできます。

ただ水場が無く、雨水の利用となりますので、天候により水の確保が不十分なこともあります。登山口からの距離もありますので、早出の行動と天候の変化に注意して登山してください。



2階の様子